

研究構想シート	学校名	飯南町立来島小学校
	氏名	安部 早耶香
A 研究主題 自ら学びを進めていく児童の育成～国語科における見方・考え方を働かせる授業実践を通して～		
B 研究の目的 国語科の学習において、見方・考え方を働かせ、考えを広げたり深めたりしながら、自ら学びを進めることができるようにするための工夫について、授業実践を通して明らかにする。		
C 子どもの実態 <ul style="list-style-type: none"> ・学習に真面目に向き合い、与えられた課題に丁寧に取り組む。 ・算数科では、ガイドの手引きを活用することで、児童が主体的に自力解決をしたり、話し合いを進めたりする経験を積んでいる。 ・国語科においては、解決のための明確な見通しをもっている児童が少ない。 ・自力解決が難しい児童ほど、問題文から情報を読み取ることや、読み取った情報を比較、分類、関係づけすることに課題がある。 	E 手立て・内容（研究仮説） 基本仮説：追究したい学習課題を明確にし、国語科における見方・考え方を働かせる単元構成や授業展開の工夫をしていけば、児童は自身の考えを広げたり深めたりしながら、自ら学びを進めていくことができるであろう。 具体仮説Ⅰ：追究したい学習課題を明確にし、学習を通して身に付けた「課題の追究を支える方法（見方・考え方）」の価値を見出したり、振り返ったりすれば、児童は自ら学びを進めていくことができるであろう。 具体仮説Ⅱ：「追究したい学習課題」に対してどんな見方・考え方を働かせるか明確にした活動や発問を設定すれば、児童は自身の考えを広げたり深めたりしながら、自ら学びを進めていくことができるであろう。	D めざす子どもの姿 <ul style="list-style-type: none"> ・「追究したい学習課題」を意識しながら、学習に取り組もうとする。 ・「追究したい学習課題」に対して、「見方・考え方」を働かせて解決しようとする。 ・「追究したい学習課題」に対して、「見方・考え方」をもとに進んで他者と協働し、考えを広げたり深めたりする。 ・自身の学習を、視点に沿った的確にふり返る。 ・学習を通して身に付けた「見方・考え方」を汎用的に活用しようとする。
	F 検証方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ノート、ワークシート、振り返りの記述をもとに児童の変容を見取る。 ・昨年度と今年度の児童・教職員アンケートを比較し、追究したい学習課題を意識しながら学習に取り組むことができたのか、「見方・考え方」を働かせることができたのか分析する。 	
	G 研究計画 ○1学期 第3・4学年授業研究 第2学年授業研究 学力調査分析 ○2学期 第5・6学年授業研究 第1学年授業研究 ○3学期 児童・教職員アンケート結果の分析 研究のまとめ	